地域で生活する障害者を応援する
「からしだね館」の旬な情報をお届けする機関誌

からしだね通信

VOL.56
2021 12

1 巻頭言
2～4 LGBTQを知る・理解するpart2
5～6 ざっくばらんに語る座談会
7 性的マイノリティについてのアンケートから
8 会計報告
後援会などご協力者さま

うつくしいものの話をしよう

今年もあっという間に師走です。からしだね館では、書店（ブックカフェ）の開始で、年明けより息もつかず走り続ける一年でした。近年の書店経営の厳しい現実、コロナ禍の様々な困難を覚えながらも、「書店」という場に新しい可能性を感じる日々でした。

たくさんの皆さまのご協力に心から感謝いたします。

ネットが幅をきかすこの時代に、あえてリアルな書店の挑戦です。

まるで大きな濁流のなかで流されまいと足を踏ん張っている小さな橋のような感じがします。

それでも、この橋は、これまでそのまちの多くの人々を支えてきました。

人々の往来にあわせて、様々な喜びや悲しみも橋を行き交うのです。

書店の用事で、今年はときどき遠方へ出かけました。

秋には、京都北部の丹後地方から福井県の南部の方まで。1泊2日の車中泊です。

朝早く霧の中を走り、やがて晴れて来ると、晩秋の柔らかい日差しが紅葉に映えていました。

日が暮れるとすぐに暗くなります。道の駅に車を止め、夜を過ごす準備をしました。

きれいな星空でした。

「うつくしいものの話をしよう」と始まる詩があります。

うつくしいものの話をしよう／いつからだろう／ふと気が付くと
うつくしいということをためらわず口にすることを誰もしなくなった
うつくしいものをうつくしいと言おう
風の匂いはうつくしいと／渓谷の石を伝わっていく流れはうつくしいと（中略）
一体、ニュースと呼ばれる日々の破片が／私たちの歴史と言うようなものだろうか
あざやかな毎日こそ／私たちの価値だ／うつくしいものをうつくしいと言おう（後略）
（長田弘『世界はうつくしいと』より）

私たちは、何に美しさを見ているのだろう――　そんなことを考えてしまいます。

〝美しい日本へ〟と訴えた政治家がいましたが、おそらくそれは詩人の言う美しさとは全く違うものなのです。

濁流の中で、いろいろものが見えなくなってしまっているような気がします。

そう言えば、クリスマスの夜、イエスの誕生を最初に知らされたのは、
夜番をしていた貧しい羊飼いたちでした。どんなに美しい星空だったことでしょう。
美しい物語は、しばしば人知れぬ片隅にあります。

皆さまの上に、クリスマスの祝福をお祈りします。
幸多き新年をお迎えください。

理事長　坂岡隆司

特集 性の多様性をどう考える？

Part.2

からしだねでは、福祉のテキストでもほとんど取り上げられることなく、職員も学ぶ機会を持たないままに過ごしてきたLGBTQについて、「ほとんど理解していない」ということを前提に、その「理解してなさ」を出し合うことから始めようじゃないかと、ざっくばらんな座談会を開きました。前号では、①「よく知らないからこそ、まずは知ろうとすること、お隣さんになること、関心をもつことが大事だね」と確認し ②「もし自分が同性から「好きだ」と告白されたら、どんなふうに感じるだろうか」と、体験も交えて想像し ③LGBTQの生きづらさって、どういうものなんだろうか？ ④福祉事業所は、これからどんなふうに対応していったらよいのかな？と、話がどんどん展開していった座談会の前半をご紹介しました。

LGBTQとは…
レズビアン（女性同性愛者）ゲイ（男性同性愛者）バイセクシュアル（両性愛者）トランスジェンダー（心と体の性が一致していない方）に加えて、自分の性がわからないという「クエスチョニング」と性的少数者を表す「クィア」のQを加えた、セクシュアルマイノリティ全般を表す言葉

座談会メンバー
マナ：女性
ケビン：男性
こんち：女性
ビッシー：女性
山ちゃん：男性
やきそばパン：女性

マナ：以前、体は男性なんだけど女性です、という人がからだねに通所したいと申し込んでこられました。そのとき、主治医の見立てとしては「彼は男性。自分は女性だという『妄想』をもっている男性」でした。もうこうなると、精神疾患の「妄想」という症状なのか、生まれつきのものなのか、どう判断してよいのかがわからなくなりました。結局、本人の都合で通所にはいたらなかったですが。

ビッシー：判断する医者の知識の問題もあると思います。医学的知識だけではない知識。

マナ：そうですよね。帚木蓬生の「インターセックス」という小説を読んだのですが、それは体の形、つくりが生まれつき「男性」か「女性」かはっきりしない人たちの苦しみ、生きづらさをあつかった小説です。たとえば外見は男性に近くて、体の中には女性器官も持っていたり。染色体をひとつ多く持っていたり…。出生届の「男」「女」の性別欄をどうするかは、産科医師の判断に委ねることになります。出生届の性別欄に合わせることが我が子のためになるという親ごころから、何回も苦しい手術を繰り返し、体の形をどちらかの性に近づけていったけれど、その結果、体の性別と心の性別が不一致になったりしたら、本人も親もとても傷つきます。そうまでして「男」か「女」かということに、こだわらないといけないのか？あいまいなままではダメなのか？

ケビン：そういうケースもあるなら、ますます性の判断は本人の気持ちを大事にしないといけませんね。医学的な見地だけでなく、心理面や、社会の一員として生きていく人としての見地からも。

こんち：障がい者支援でも同じことが言えます。医者の診断した病名の意味以上に、本人にとって何が問題で何がしんどいか、その生きづらさを知っていくことが、大事なのですが、本人も周囲も「診断名」を軸にして、その後の生活や生き方を思い描いてしまう。

山ちゃん：新しい何かを「知る」ということは、自分の価値観・倫理観を問われます。自分の基準で相手をおしはかるのではなく、自分自身の考え方の基準を問い直すことが大事。

マナ：そうだと思います。今回、LGBTQのアンケートに「宗教」についての質問をいれてみました。信仰を持つということは、自分の信じる宗教の教えを基盤にして、自分の価値観、倫理観を構築していく。そしてより良い生き方を求めていくということだと思うのですが、おっしゃるように、対人援助では支援者自身がそこを再構築し続ける柔軟さが必要になります。からしだねの職員は、キリスト教徒の人がやや多く、特定の宗教に属さない人もそこそこいます。アンケートでは、「キリスト教会では性的マイノリティに対して厳しい考え方を持つ人が多い」と答える人が多かったです。仏教はわりあい大らかだと言われていますが、イスラム教なんかはキリスト教以上に厳しいように思います。

ビッシー：私の歴史理解としては、日本は昔から男色が盛んだったけれども、明治になってキリスト教的倫理観が入ってきてから、男色を隠すようになったというイメージです。

山ちゃん：聖書では人間の「罪」と性的な過ちを結びつけて考えることが多いですからね。

ケビン：たとえば、不倫とか売買春とか性的虐待とかは、「罪」ですね。

山ちゃん：はい。それとLGBTQの問題とは、全く別なのではないかと、私は思っています。LGBTQと「罪」とが同一視されて排除されてきてしまったという歴史があるのではないでしょうか？

こんち：私もそう思います。いわゆる「同性どうし」で愛し合うのは罪だという理解をしている人は多いと思います。

ケビン：まだLGBTQという「概念」自体が存在しなかった、知識や情報がなかった時代があったということですね。

マナ：旧約聖書に、罪によって荒廃したソドムの町を神様が滅ぼすという話が出てきます。映画にもなっています。その罪の代表格がセックスの乱れ。男性が男性を強姦する話も。私の頭にも、それが映画の中の乱れ切ったシーンと一緒になって、ガン！と打ち込まれているなと思います。創世記には、「神は人を男と女に創られた」という記述もありますから、男と女の2種類以外は無いものとするという考え方もあるのかもしれません。

やきそばパン：キリスト教の教義として、LGBTQはダメなんですか？

山ちゃん：いわゆる「教義」としてダメと言っているのかどうかというと、勉強不足で、私にはわかりません。

ケビン：じつは今までもずっと存在していたけれど、社会の表面に浮かび上がれず、見えてこなかった新しいLGBTQという「概念」が、今の時代によやく浮かび上がってきた。アバウトでよくわからなかったものが、少しずつ解明され、居場所を得て、名前がつけられ、定義され、説明されるようになってきたと、私は考えます。

やきそばパン：LGBTQを「概念」としてとらえる。ということは、キリスト教の「男」と「女」は、もしかしたら、生物学的な「男」と「女」でなくてもいいということですか？

ケビン：そうかもしれないと私は思います。聖書の翻訳の仕方も、時代や文化的背景によって違ってくると思いますし。

マナ：「教義」はその宗教の軸なので、絶対におろそかにすべきではないと思います。でもLGBTQを神学的な「教義」として捉えるのは無理があるのではないでしょうか？LGBTQという「概念」が出来上がりつつある現代に、神学的な「教義」として神学者だけのジャッジに任せて、「セーフ」か「アウト」かというのは、ちょっと乱暴な気がします。それはキリスト教以外の宗教にも言えるんじゃないかな？

ケビン：聖書全体が、神の教えとして「人」の存在をどう捉えているか？LGBTQも含めて弱さを抱えながら生きるすべての「人」を「神の福音」にあずかる「人」としてどう捉えるか？ということがキリスト教の「教義」の中心だし、大事なんだと私は思います。

マナ：私もそう思います。それと、厳然とした事実として、子どもは男と女の間にしか生まれない。そういう意味で聖書は「男と女に創られた」と言っているのかなと、最近思うようになりました。キリスト教は「いのちの尊厳」を大事にしますから。その「いのち」が生まれる根源においての「男」と「女」。

ビッシー：「アレキサンダー」という映画があるんですが、アレキサンダーはバイセクシャルだったらしくて、男性の恋人も登場するんです。それに対してキリスト教のどこかの団体がすごく抗議した。でもアレキサンダーはキリストが生まれる前の時代の人で、その歴史的な事実を、後の時代のキリスト教の人たちがああだこうだ言うのも不思議だなとそのとき思いました。

マナ：そこはもう「そういうお考えなんですね」と、放っておくしかないのかも。ただ、映画に抗議した人たちは、かなり原理主義的な人たちで、自分たちの信じる教えに照らし合わせたら許せないと言っているのでしょうけど、「許せない」とひっかかった後、そのひっかかりについて、本当にそうなんだろうか？と胸に手を当てて問い直す、そういうやわらかさこそ持ってほしかったなと思います。

ケビン：精神疾患が「悪霊のしわざ」と解釈された時代もあったと聞きます。宗教に限らず、物事の解釈は、その時代に解明している知識の範囲の中で決まっていきます。今、新たな概念として表面化してきたLGBTQについても、今の時代にわかりつつある新たな知識や当事者の声・経験を加えて、かつての解釈が本当にあてはまっているのか、冷静に考えてよいと思います。

マナ：もし自分がキリスト教徒でなければ「多様性」という現代の風潮だけに飛びついて、「だからLGBTQの人も受け入れるんだ」と、わりと薄っぺらな正義感・人権感覚でLGBTQを捉えていたのかなと思います。深く考えよう、もっと情報を得ようと思えたのは、まず「LGBTQは罪？」という、今まで持っていた信仰基準のひっかかりがあったからこそ。でもそこで留まらず、問い直す、自分の頭で考えなおす。それはなかなかしんどいことではあるけれども、「そのしんどいことをしなさい」と神様から言われているように思います。

こんち：私はよく「なんで私は障がい者ではなく、この人は障がい者なんだろう？」「なんで私は日本人で、この人は外国人なんだろう？」「なんで私は救援する側で、この人は被災者なんだろう？」といちいちひっかかって考えてしまいます。目の前にいる人に起きている理不尽としか言いようのない出来事に支援者として直面すると、ひっかかりをもって、悩んで、疑問をもって見るようになる。難しい問題の中を生きる人と関わることによって、悩みは深くなるし答えを出すのも簡単ではないと思うようになりますが、一緒になって悩むことこそ大事なのかなと、最近思います。答えを出す側、与える側になってはいけない。

ケビン：人種差別、民族差別、身分差別とかも、LGBTQ差別と、始まりは一緒ではないかと思います。みんながあたりまえだと思っている「常識」の真っただ中にいて、なんの問題も感じない人が多いなか

Karashidane
社会福祉法人 ミッションからしだね
The Kingdom of Heaven is like a mustard seed planted in a field. -Matthew13:31-32

で、やっぱり問題だと感じる人、違和感を感じる人はいる。その少数者の声に耳を傾けることが大事で、だからこそ社会は良い方向へ変化していくと思います。

マナ：男女差別だって、私の中学時代は女子は調理実習とか育児とかを勉強する家庭科、男子は大工仕事的なことをやる技術家庭とかだったし。

やきそばパン：私、服を縫うより、棚とか作りたかったのに。男子がうらやましくてしょうがなかったです。

こんち：私も！

ケビン：考え方も更新されていく。ふつうとかあたりまえとかも、どんどん変化していく。

山ちゃん：今、学校では「さん」づけで呼びましょうとなってきている。男の子を「くん」で呼ぶのはだめとか、そこはどうなんだろう？

こんち：運動会で順位つけるのはダメだから、おてつないで、みんなでゴールとか？

ケビン：運動会でしか目立てへんやつもおること、忘れんといてほしいですね。

やきそばパン：多様性を認めるという社会の流れの中では、いきすぎのような極端なことも起こってくるけど、いきすぎたら揺り戻しのようなことも起こって、いろんな意見が出て、最終、落ち着くところに落ち着く。それが大事なんでしょうね。

マナ：男性性・女性性に、それぞれの傾向性や特性があるのは当然ですが、ただその傾向性、特性のライン上のどのあたりに自分がいるのかは、個人によって違う。女の人は「さん」男の人は「くん」と呼びましょう、と決めるのも、「さん」で統一しましょう、というのも、本質的に同じというか…「○○くん」と呼ばれたい人には「くん」と呼んだらいいんちゃうん？と思います。

やきそばパン：新学期の最初に、先生が聞くんですかね？あなたは「くん」と呼ばれたい？それとも「さん」？

こんち：ほんとに、そういう時代がくるかもしれませんね。「あなたはどちらですか？」。いやあ、それもめんどくさい社会ですねえ。

ビッシー：今は、Miss. Mrs. だけでなく、Ms. も使わない人がいるそうですし。

山ちゃん：Ladies and Gentlemen も言わなくなった。

こんち：へえー、そうなんですね。だんだん考えすぎて頭が回らなくなってきました。

ビッシー：それから、レインボーフラッグとかパレードとかやってるけど、ＬＧＢＴＱの人が、みんなそれに同意しているかというとそうでもなくて、「そっとしといて」という人もいるようです。私たちがひとくくりにしがちな「ＬＧＢＴＱ」の中でも、特定の性的志向の人に対して排他的になったり、上下とか、優劣をつけるとか、この人たちとは違う、みたいなのもあるらしいです。差別・偏見というのは、どこにでも同じように起こるもの、難しいなあと思います。

こんち：アメリカにいたときに、精神科で仕事をしていたのですが、黒人の患者さんからむちゃくちゃアジア系差別されました。差別されている人が、他の人を差別するということもあるから、一筋縄ではいかないです。

マナ：そうですね。キリスト教でいう「罪」の根源は、そこにあるのかも…。まだまだ話し足りないこともありますが、そろそろお開きです。最後に皆さん、一言ずつどうぞ。

山ちゃん：ＬＧＢＴＱの人たちと自分とでは生理的な感覚の違いがあるのかもしれないなと思っています。生理的にＬＧＢＴＱの人達の恋愛対象者は、セクシャルな行為に直でつながる。一致する傾向が強い。どちらかというとそれがより本能に近い。人間的な気がします。理性という言葉で分けているが、本来は結びついているものなのかなと思うので。

やきそばパン：今度いったいいつ、巡り合えるかわからないし。この出会いをものにしないと…とか？

マナ：うーん、私は、山ちゃんの言うことが半分わかったようなわからないような。

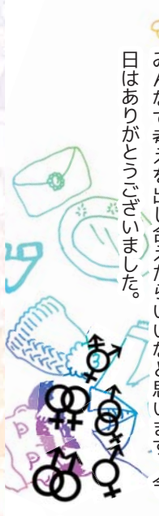
ケビン：そこは、ＬＧＢＴＱだからこうです、ではなくて、人それぞれだと思いますが…。私は自分の中に根付いてきた感覚とどう折り合いをつけるかが課題だなあと思いました。それと、福祉職として、これから予想されるであろう問題を、からしだねだけではなくて他の機関とも一緒に考えていきたいなとも思いました。

ビッシー：私は、ＬＧＢＴＱのことを、自分ではわりと理解しているつもりでいましたが、今日、皆さんと話をして、まだまだわからないことが多いことに気づきました。もっともっと知っていかないといけないと思います。

やきそばパン：私は今までＬＧＢＴＱについて、身近に感じていなかったし、そういう話を聞いても反応として薄かったと思います。ただ、どんな人にも個人的に合う合わない、好き嫌いはあるし、合わない人とは友達になりたくないですよね。そこが多様性の問題とからまってしまうと話がややこしいなあ、いやだなあと思います。

こんち：この人はＬＧＢＴＱの人だからとか、障害のある人だからとかいう枠をはめて相手を見てしまうと、本当の意味でその人と知り合うことができない。自分の中にも性的なものに対する枠があるし、その枠をはめて相手を見ているかどうかを、自分に問うてみることが必要なのかと思います。

マナ：ＬＧＢＴＱに限らず、多様性を認めるって口では簡単に言えますが、具体的にひとつずつ考えると、どうしたらよいのかわからないことが多いなあと思いました。また次の機会に、ＬＧＢＴＱに限らず、みんなで考えを出し合えたらいいなと思います。今日はありがとうございました。



障害者地域生活支援センター「からしだねセンター」
就労継続支援A・B型事業所「からしだねワークス」

「性的マイノリティ」（LGBTQ）について

レズビアン　ゲイ　バイセクシャル　トランスジェンダー　クィア

のアンケートから抜粋しました。

1　あなた自身、あるいはあなたの親しい人の中に、性的マイノリティの人はいますか？過去にいましたか？その人に対して、あなたはどのように感じ、どのように接していますか？あるいは、どのように接するのがよいと思いますか？

・知人にはいない。性的少数者だと明言した人に直接会ったことはない。（複数回答）
・LGBTQ について、話題にすることはなかった。関心がなかった。
・気になったお化粧のこととか自然に聞いてみたら、楽しいひとときを過ごすことができた。人と人、個人と個人として出会えば、違和感はない。
・ご本人がカミングアウトし、そのまま牧師として認められた人がいる。
・それぞれがかっこよく生きておられたので、おのずと在り方を認めていた。皆が自然に配慮し、一定の尊重を保っていたので、それが当たり前であったように思う。
・同級生がそうだったのかな？そのときは、LGBTQ の存在を知らなかったので、私も周囲も特別なことなく接していた。
・LGBTQ かどうかに関係なく、その人の全体の個性に触れなければ、その人を理解できないと思う。
・個人的な感覚としては、生理的な拒否感のようなものが自分自身の中にあるのは否めない。
・「多様な人がいるということを理解している」という姿勢を見せる、それが大事。たまにレインボーフラッグのアクセサリーや小物を身につけることがあるが、それは、気づいてくれる少数者がいて、「大丈夫だよ」とちょっとだけ伝えられたらうれしいから。
・高校生の頃、いじられキャラにして、みんなでふざけていたが、今ならアウトだったと思う。
・誰でもマイノリティな要素はどこかに持っていると思うので、普通に接するのが一番かなと思っている。
・性とは、単純に同性・異性と二分化できるものではなく、非常に多様であいまいな気がする。
・誰がどのようなセクシャリティを持っていても、それは個人の個性であり、まったく問題ないと思う。マイノリティの人がカムアウトしたいのであれば、それでいいし、逆に言いたくないのであれば無理に話さなくてもいいと思う。それは同性愛者でも異性愛者でも同じ。
・「ゲイだからおしゃれが好きなんでしょう」など、褒めているつもりでステレオタイプのゲイにあてはめるような偏見もある。
・同性間の結婚も、早く日本で認められるようになればよいと思う。

2　あなた自身は、10年前と今とでは、LGBTQの方たちについての考えや感覚が変化しましたか？どのように変化しましたか？変化したきっかけは何ですか？

・理解する方向で変化したと思う。やはり、メディアの影響が大きいと思う。（複数回答）
・かつては、LGBTQ に対する意識は低かったが、現在は自分が持っている認識は正しいのか、あるいはその認識をもつことで、無意識のうちに人を傷つけていないかということを意識するようになった。
・私もまた、他人とのかかわりの中で不快な思いをしたり、誤った理解のされ方をする。人はそれぞれ決定的に違うということや、人を理解するのは本当に難しいことを、身をもって知った。違いは普遍的にある。そして人間の理解力は低い。それを意識することが、コミュニケーションにおける丁寧さにつながると思う。
・変化したと思う。きっかけは LGBQ の方との出会いだった。　・帚木蓬生の「インターセックス」という本を読んでから変化しました。
・その多様性にとまどいも感じるが、それぞれのケースに、なるほど…と考えさせられ、さらに理解を深めていく努力をしていかなければならないと思うようになった。
・両親が差別・偏見を持った人だった。私が素直な子だったら両親の考え方、捉え方にはまっていたかもしれない。子どもながらに反発して、心の中で違和感を持っていた。
・LGBTQ の人の割合が多いことを知り、驚いている。統計だと、クラスに 1 人や 2 人はいる割合。
・以前（20 年前）は、LGBTQ の方々は、いわゆる「反モラル（道徳的でない）」な人々というふうに思っていた。その後、知識を得ること、当事者の話を聞くことなどで、そんなに単純な問題ではないと思うようになった。
・最近になってようやく性的マイノリティに対する自分自身の中の意識について問い直している段階。以前は単なる性的嗜好のように捉えていたと思うが、障害福祉分野で仕事をする中で、単にその人の好みや意思、興味というレベルで捉えるものではなく、その人にとっても抗いようのない感覚や違和感が存在する、見た目で他者が判断できないものがあるのではないかと思うようになった。
・特に大きな変化はないが、LGBTQ という言葉が広まり、他にも多様性を表す新しい言葉がたくさん生まれてきたことによって、逆に少し息苦しさを感じる。
・自分自身の考えは、10 年前とさほど変わってはいない。性的マイノリティに対する理解も広まってきてはいるが、まだまだ社会全体のマイノリティに対する偏見は根強くあり、その閉塞感が、彼らを最悪の場合自殺にまで追い込んでしまうのではないかと思うと、子どものころからのきちんとした教育が必要だと思う。
・もっともっとトランスジェンダーの方など、性の不一致で苦しむ人のことを知りたいと思うし、声を聴かせてほしいと思うようになった。

3　日常生活の中で、あるいは支援をしていて、LGBTQに関連して、何か困ったことはありますか？それはどんなことですか？

・じつはいっぱいあると思うが、気がついていないことが多い。（多数回答）
・困ったことはないが、困るべきなのに、見過ごしてしまったことはあるかもしれない。
・支援の中では「LGBTQ」を隠れ蓑にして、異性への性的なアプローチを福祉サービスの中に要求するようなケース、疑わしく感じてしまうケースがあった。その時、相手を疑うこと自体がダメなこと、差別的なことだと捉え、自分でも自分を責める意識が生じた気がする。
・「わからない」「理解できていない」という自信のなさから、必要以上に遠慮したり言葉を選んでしまったり不自然な態度になりがち。
・親との会話の中で、差別的な言葉が自然に出てくるので、どう反応して良いのか分からない。
・性的マイノリティに限らず、世間話をしている時に、誰かがマイノリティを揶揄した場合、その場の空気を壊さないよう、黙って笑顔でその場にいたことが何度かあった。心の中では「それはダメだろう」と思っていても、それを口に出せなかった。その場にも傷つく人がいたかもしれないにもかかわらず。沈黙は同意と同じ。揶揄した相手に対し、これは当事者を傷つける言葉だよと、うまく伝えられる話法があればいいなと思う。
・クリスチャンの友人と LGBTQ の話題になったことがあるが、友人は「どうしても受け入れられない。罪だとか言う気はないが、積極的に受け入れる感じにはどうしてもなれない」と言いきり、それ以上はあんまり突っ込んで話しができないなあと思った。

talents　カフェ トライアングル　障害者地域生活支援センター「からしだねセンター」
就労継続支援A･B型事業所「からしだねワークス」

2020年度決算報告

第二号第一様式　　令和 3年 6月 4日

法人名　社会福祉法人　ミッションからしだね

事業活動計算書

（自 令和 2年 4月 1日　至 令和 3年 3月31日）　（単位：円）

		勘定科目	当年度決算(A)	前年度決算(B)	増減(A)-(B)
サービス活動増減の部	収益	就労支援事業収益	26,405,181	32,060,732	△5,655,551
		障害福祉サービス等事業収益	75,864,111	77,459,582	△1,595,471
		経常経費寄附金収益	4,091,879	1,526,447	2,565,432
		その他の収益	580,000		580,000
		サービス活動収益計(1)	106,941,171	111,046,761	△4,105,590
	費用	人件費	62,089,536	64,013,969	△1,924,433
		事業費	2,534,961	3,868,343	△1,333,382
		事務費	9,976,681	5,249,338	4,727,343
		就労支援事業費用	27,294,719	32,806,122	△5,511,403
		地域貢献支出	621,906		621,906
		利用者負担軽減額	111,600	111,600	
		減価償却費	4,401,365	4,321,947	79,418
		国庫補助金等特別積立金取崩額	△2,051,296	△2,013,457	△37,839
		サービス活動費用計(2)	104,979,472	108,357,862	△3,378,390
		サービス活動増減差額(3)=(1)-(2)	1,961,699	2,688,899	△727,200
サービス活動外増減の部	収益	借入金利息補助金収益	196,860	229,670	△32,810
		受取利息配当金収益	431	364	67
		その他のサービス活動外収益	255,230	21,000	234,230
		サービス活動外収益計(4)	452,521	251,034	201,487
	費用	支払利息	204,960	245,870	△40,910
		サービス活動外費用計(5)	204,960	245,870	△40,910
		サービス活動外増減差額(6)=(4)-(5)	247,561	5,164	242,397
		経常増減差額(7)=(3)+(6)	2,209,260	2,694,063	△484,803
特別増減の部	収益	施設整備等補助金収益	1,727,450		1,727,450
		特別収益計(8)	1,727,450		1,727,450
	費用	国庫補助金等特別積立金積立額	1,727,450		1,727,450
		特別費用計(9)	1,727,450		1,727,450
		特別増減差額(10)=(8)-(9)			
		当期活動増減差額(11)=(7)+(10)	2,209,260	2,694,063	△484,803
繰越活動増減差額の部		前期繰越活動増減差額(12)	44,422,475	41,728,412	2,694,063
		当期末繰越活動増減差額(13)=(11)+(12)	46,631,735	44,422,475	2,209,260
		基本金取崩額(14)			
		その他の積立金取崩額(15)			
		その他の積立金積立額(16)			
		次期繰越活動増減差額(17)=(13)+(14)+(15)-(16)	46,631,735	44,422,475	2,209,260

第一号第一様式

法人名　社会福祉法人　ミッションからしだね

資金収支計算書

（自 令和 2年 4月 1日　至 令和 3年 3月31日）　（単位：円）

		勘定科目	予算(A)	決算(B)	差異(A)-(B)	備考
事業活動による収支	収入	就労支援事業収入	30,987,000	26,405,181	4,581,819	
		障害福祉サービス等事業収入	81,779,000	75,864,111	5,914,889	
		借入金利息補助金収入	229,670	196,860	32,810	
		経常経費寄附金収入	1,800,000	4,091,879	△2,291,879	
		受取利息配当金収入	270	431	△161	
		その他の収入	40,000	255,230	△215,230	
		事業活動収入計(1)	114,835,940	106,813,692	8,022,248	
	支出	人件費	62,093,000	62,089,536	3,464	
		事業費支出	2,959,000	2,534,961	424,039	
		事務費支出	4,418,000	9,976,681	△5,558,681	
		就労支援事業支出	30,867,000	26,930,977	3,936,023	
		地域貢献支出		621,906	△621,906	
		利用者負担軽減額	111,000	111,600	△600	
		支払利息支出	245,870	204,960	40,910	
		事業活動支出計(2)	100,693,870	102,470,621	△1,776,751	
		事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)	14,142,070	4,343,071	9,798,999	
施設整備等による収支	収入	施設整備等補助金収入		1,727,450	△1,727,450	
		施設整備等収入計(4)		1,727,450	△1,727,450	
	支出	設備資金借入金元金償還支出	2,470,000	2,470,000		
		固定資産取得支出		2,417,326	△2,417,326	
		施設整備等支出計(5)	2,470,000	4,887,326	△2,417,326	
		施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)	△2,470,000	△3,159,876	689,876	
その他の活動による収支	収入	その他の活動による収入		580,000	△580,000	
		その他の活動収入計(7)		580,000	△580,000	
	支出	その他の活動による支出		100,000	△100,000	
		その他の活動支出計(8)		100,000	△100,000	
		その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)		480,000	△480,000	
		予備費支出(10)				
		当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)	11,672,070	1,663,195	10,008,875	
		前期末支払資金残高(12)	44,816,612	46,834,228	△2,017,616	
		当期末支払資金残高(11)+(12)	56,488,682	48,497,423	7,991,259	

法人名　社会福祉法人　ミッションからしだね

貸借対照表

（令和 3年 3月31日現在）　（単位：円）

資産の部 勘定科目	当年度末	前年度末	増減	負債の部 勘定科目	当年度末	前年度末	増減
流動資産	55,412,093	55,824,395	△412,302	流動負債	8,844,670	11,460,167	△2,615,497
現金預金	39,200,171	36,283,696	2,916,475	事業未払金	2,651,157	2,836,794	△185,637
事業未収金	11,480,286	11,790,113	△309,827	1年以内返済予定設備資金借入金	1,930,000	2,470,000	△540,000
未収補助金		229,670	△229,670	預り金	36,390	53,671	△17,281
立替金	5,040	93,644	△88,604	職員預り金	226,623	92,603	134,020
前払費用	726,596	442,380	284,216	仮受金	4,000,500	6,007,099	△2,006,599
仮払金	4,000,000	6,984,892	△2,984,892				
固定資産	101,454,961	104,062,358	△2,607,397	固定負債	7,720,000	9,650,000	△1,930,000
基本財産	97,249,350	101,698,884	△4,449,534	設備資金借入金	7,720,000	9,650,000	△1,930,000
土地	35,750,000	35,750,000		負債の部合計	16,564,670	21,110,167	△4,545,497
建物	61,499,350	65,948,884	△4,449,534	純資産の部			
その他の固定資産	4,205,611	2,363,474	1,842,137	基本金	60,768,000	60,768,000	
車輌運搬具	1,679,373	3	1,679,370	第一号基本金	60,768,000	60,768,000	
器具及び備品	1,439,797	1,882,625	△442,828	国庫補助金等特別積立金	32,902,649	33,586,111	△683,462
ソフトウェア	866,441	360,846	505,595	国庫補助金等特別積立金	32,902,649	33,586,111	△683,462
差入保証金	220,000	120,000	100,000	次期繰越活動増減差額	46,631,735	44,422,475	2,209,260
				（うち当期活動増減差額）	2,209,260	2,694,063	△484,803
				純資産の部合計	140,302,384	138,776,586	1,525,798
資産の部合計	156,867,054	159,886,753	△3,019,699	負債及び純資産の部合計	156,867,054	159,886,753	△3,019,699

4

日常生活の中で、あるいは支援の現場で、今後LGBTQにまつわるどんな課題が出てくると思いますか

・職場や学校で、カミングアウトしたりしなかったりを含めて、自由に話せる雰囲気を作っていくこと。そのためにも積極的にこのトピックについて話をすることが大事だと思う。
・まずは自分がLGBTQについて、学び理解することから始めないと見えてこないと思う。
・身内の結婚に関わる諸問題。周囲と調和し、理解を得ていくエネルギーは大きいものになる。
・当事者がどうありたいのか?どう接してほしいか?胸の内を本当に理解できるのか?間違った言葉をかけてしまわないか?
・職場での対応、更衣室、トイレの問題。
・知識を広め、理解できない人には強要せず、理解できる人を増やし、自然に受け入れられるようにすること。
・悪意のある偽LGBTQだった場合は、ある種のハラスメントが合法のベールを被って延々と続けられる可能性もあるのではないか。特に「訪問」という完全アウェイの環境で、場合によっては1対1の密室の中で、危険な状況になることも考えられる。
・トランスジェンダーにまつわる課題は多く出てくると思う。トイレの問題が最近もニュースになっていたが、心の性別と体の性別を無理に一致させない選択をする人もいるので、心の性別だけを尊重してしまうと、今度は逆にシスジェンダーが辛い思いをしてしまう。
・LGBTQという言葉がひとり歩きしているような感覚もある。LGBTQを利用した性犯罪なども増えていくのではないか? LGBTQの話題は、今後もまともな議論がされないまま進んでいくのではないか心配。
・以前ネットで「マイクロアグレッション」という言葉を目にした。これは日常的に、意図する意図していないに関係なく、マイノリティに対して行われる差別や蔑みなどの事。差別はいけないと頭ではわかっていても、私も無意識に誰かに対し偏見を持っていたり、差別したりするのではないか?そういう問題意識を常に自分に向けて問いかけなくてはいけないと思う。
・当事者の行動や考えが自分の想定（書籍などで得た知識）を超えた場合、冷静に対処できるのか?突発的にカムアウトなどされた場合、相手を不安にさせずに、きちんと自分の言葉で受け止めたことを伝えられるのか?一人一人対応は違うとは思うが、最低限相手の心を汲みとれるよう、そして傷つけぬように、シミュレーションのようなものが必要かとも考える。

5 ❶

特定の宗教を信仰している人に質問します。

①あなたの信じている宗教の教えでは、LGBTQについて、肯定的だと思いますか?あなた自身は、LGBTQについて肯定的ですか?否定的ですか?その理由は?

・教会としては、否定的。あるいは肯定的ではないが、個人的には肯定的。（大多数意見）　・ひとりひとりの理解の仕方によると思う。
・秩序を乱さないという条件で、肯定。神様の下で、皆平等であり、愛の対象。しかし、そこにエゴイズムが入ると、ノーなのかもしれません。
・私自身は最近の変化の中で「考えてみる必要がある」と思うようにはなっているが、完全に肯定的だとは言えない「何か」があるように感じる。まだ「分からない」が正直な現状です。
・聖書の真理は変わらないがその解釈は変わるのかもしれない。そして聖書の真理が、LGBTQを否定しているとは思えない。
・私はどちらとも言えない。ただ、本当に苦しんでいる人がいるだろうと思う。
・LGBTQに関係なく、人間をどうとらえてどう接するべきかが大切だと思うので、聖書が教える通り、「すべての人が罪びとで、すべての人が救われる存在」だと思う。自分のこころの弱さゆえの、好き嫌いは必ずあると思う。
・私自身は今のところ判断できない部分があり、中間的な立場のように思う。
・公式には否定的で、一般信者はほとんど無関心か意識していないと思う。私自身は、少数者であれ、多数者であれ、同じ人間なので、人間を肯定する以上すべての人間を肯定するべきだと思う。あるいはすべての人間は人との違いをもっていて、その意味で少数者でない人間はいないのだから、ことさら性に関する違いだけをもって他者を否定するのは、論理的にもおかしなことだと思う。
・個人的には、以前は罪だと思っていたが、今は罪だとは思わない。どんな環境で育ちどんな教育を受けてきたかによって、根付いてしまった性別に対する感じ方や偏見みたいなものはあると思う。どの宗教に属するか以前に。

5 ❷

特定の宗教を信仰している人に質問します。

②あなたの所属するグループ（教会やお寺など）はLGBTQの方を受け入れていると思いますか?その理由は?

・LGBTQの方々についてオフィシャルに議論したり考えたりする機会すらない状態。
・教会の中で、年齢を越えてオープンに話し合えるのか?話し合うテーブルに乗るのか?なんとも言えません。
・役員会なら話し合うことはできると思う。一方で頭から否定する役員さんがいるであろうことも、顔が浮かぶくらいに想像できる。　・若い世代の方が受け入れる素地が大いにあると思う。
・求道者として来会する人については拒否することなく受け入れられると思うが、クリスチャンになるという段階において「罪の問題」として扱われてしまう可能性を感じる。
・受け入れていないと思う。
・よくわからないが、必ずしも受けいれてないのではないか?
・自分の教会は受け入れます。
・私の教会は受け入れていると思う。受け入れないと言う声を聴いたことがないから。
・今のところ、具体的な事例は聞きませんが、今後、どうすればよいか、考え始めているところだと思う。
・そのような場面やケースにタッチしていないので、不明です。
・LGBTQに対する意識があまりないので、受け入れられるような雰囲気はないと思う。
・たぶん、難しいと思う。教義がどうこうと言う前に、思考停止していると思います。
・どうあつかってよいのかわからないから、その話題を避けていると思う。
・教会の中にも世代間ギャップはあるし、必ずしもみんなが同じ考えではないだろう。いったん正面から取り上げれば、それが「信仰の在り方」みたいなものと絡みあって、信徒間に波風が立つことは想像できる。「正義・ただしさ」みたいな主張のたたかいになってしまうと、当事者はおいてけぼり。彼らの本当の苦しみからはどんどん遠ざかり、本来の教えからは離れていくような気がする。逆に意見を交わし、ちゃんと対話ができる、成熟した教会になっていく可能性もある。波風が立つことをおそれてはいけない。
・LGBTQがオープンになっていくことで、宗教の本来の在り方自体が、問われる時代になったと思う。世界がSDGs（持続可能な開発目標）に目を向けつつある一方、それとは逆行するような動きもある。そんな時代とそんな社会のただ中に立つ教会は、どこに目を向けるのか?社会に開かれた教会になるのか、閉じた教会になるのか?知りませんではすまされない、避けて通れない瀬戸際に立たされていると思う。これは、福祉にも言えると思う。
・「ゲイであることに苦しみぬいて、自殺しようと思ったことがある。あの世で、自分をこんなどうしようもない失敗作に創ってしまった神か仏かわからない存在に文句を言ってやりたい」という当事者の声をきいた。私たちは、これにどんなふうに答えるのか?

「性的マイノリティ（LGBTQ）」について
（レズビアン・ゲイ・バイセクシャル・トランスジェンダー・クィア）
のアンケートから抜粋しました。

からしだね通信 12
2021 December 56号 2021年12月1日発行 編集／社会福祉法人ミッションからしだね 〒607-8216 京都市山科区勧修寺東出町75 TEL:075-574-2800 E-mail:info@karashidane.or.jp URL:http://www.karashidane.or.jp

「社会福祉法人ミッションからしだね」は、地域で暮らす障害者の福祉はもとより、社会の様々な課題に積極的に取り組んで行こうとしています。
後援会はこの働きを支えることを目的としています。ぜひご協力ください。
からしだねの機関誌の他、ブックカフェの情報、催し物のご案内などをお届けします。

＜2020年11月~2021年11月＞
ありがとうございます

【ご寄附者様】
青田　惠子様
一木　訓治様
岩田　吾朗様
インマヌエル京都伏見キリスト教会様
上羽　加代子様
表　順子様
兼松　好子様
株式会社エナテクス様
株式会社エナテクスサービス様
君村　千代子様
近藤　宏様・栄恵様
竿代　ひろみ様
坂岡　恵様
坂岡　佳子様
小笹　輝子様
出村　紫野舞様
寺井　直江様
戸塚　英子様
生川　鉄平様
鍋島　愛信様
ヌヴェール愛徳修道会様
ノートルダム教育修道女会様
京都信愛教会
長谷川　和雄様
花見　真弓様
深谷　純一様
京都復興教会
深谷　与那人様
藤井　茂様・和子様
冬木　久恵様
古市　洋様
不破　弘様
CWSジャパン　牧　由希子様
松下　幸子様
水川　武志様・登志子様
三谷　洋子様
宮崎　佳文様
森　尚江様・祐理様
吉村　英治様
インマヌエル久留米キリスト教会
吉村　和記様
税理士法人 明正マネジメント様
ＮＰＯ法人ＣＩＦジャパン様
藤原とみこ様
関　誠様
出村　紫野舞様
いのちのことば社様
池田　孝嘉様
相馬　浩様・公子様
ミッションからしだね後援会様

【後援会ご協力者様】
青木　秀次様
青田　勝彦・惠子様
赤澤　玲子様
飯田　妙子様
石川　裕二様
一木　訓治様
伊藤　順子様
茨木　惠子様
岩井　虔様
岩田　和子様
江口　真理様
榎本　貴夫様
大兼久　芳規様
大川　史様
大窪　美祈様
大山　悠子様
岡田　日佐子様
奥野　英子様
桐村　慎吾様
勝本　博子様
加藤　哲也様
兼松　哲夫様・好子様
加納　光子様
蒲池　國光様
岸川　萌木様
北村　栄一様
北村　洋様
北山　繁美様
北山　忠生様
キリスト聖教団　佐藤様
木原　活信様
君村　千代子様
工楽　康代様
倉信　範子様
小金丸　幹夫様
小島　悦子様
近藤　宏様・栄恵様
佐倉　冨男様
清水　昇蔵様
杉島　佳子様
杉野　保子様
砂川　晋治様
田上　三郎様
ブレインズ社会保険労務事務所
髙矢　祐子様
武山　忠弘様
多田出　佳代子様
株式会社田中工務店　代表取締役
田中　勝久様
田中　康夫様
谷　暢宏様
谷内　文子様
田華　紘一様・美津子様
玉田　貞子様
田村　久子様
丹野　敏弘様
出村　紫野舞様
寺井　直江様
寺田　淑子様
戸田　偉様・貴子様
戸谷　御国様
中澤　博子様
中村　武子様
中村　博子様
那須　佳子様
鍋島　泰雄様
野村　武夫様
萩原　武様
長谷川　和雄様
畑　陽子様
浜岡　典子様
濱名　正子様
林　貞子様
廣田　正子様
姫野　眞知夫様
平田　久美子様
広岡　貞之様
深谷　与那人様
藤井　茂様・和子様
藤田　明子様
藤野　美弥子様
藤原　まさ子様
筆保　洋子様
冬木　久恵様
不破　弘様
細見　忠雄様
本多　倫子様
前川　洲子様
前波　明子様
松井　孝典様
松栄　純子様
松田　和代様
松本　美穂様
三浦　良夫様
水野　健様
湊　つね子様
うさファーム
宮崎　佳文様
宮田　咲子様
宮谷　博幸様
宮崎　和子様
村岡　忠至様・聖名子様
森　尚江様
森岡　八重子様
森川　惠子様
山崎　春幸様
山下　愛子様
山根　ひろみ様
山本　真実様
吉田　功様
渡邊　日登美様
渡辺　芳子様
和田　義則様

【CLCからしだね書店支援ご協力者様】
青木　秀次様
青田　勝彦様・惠子様
新崎　冨晴様
一村　洋子様
井上　貴詞様
井上　京子様
岩井　虔様
岩田　吾朗様
インマヌエル久留米キリスト教会様
内山　映子様
江口　真理様
大川　史様
奥野　泰孝様
表　順子様
梶村　慎吾様
勝又　隆様
加藤　哲也様
兼松　好子様
蒲池　國光様
河原　良治様
岸川　萌木様
木原　活信様
空閑　浩人様
倉信　範子様
小金丸　幹夫様
近藤　宏様・栄恵様
近藤　隆之様
齋藤　謙次様
坂岡　恵様
坂本　正路様
佐倉　冨男様
柴田　珠江様
杉島　佳子様
砂川　祐司様
田上　三郎様
ブレインズ社会保険労務事務所
髙矢　祐子様
武山　忠弘様
竹山　隆造様
田中　淳様
谷　暢宏様
玉田　貞子様
田村　久子様
寺田　淑子様
戸田　偉様・貴子様
戸谷　御国様
中澤　博子様
中原　基様
中村　博子様
那須　佳子様
鍋島　愛信様
生川　鉄平様
西村　隆様
野崎　康明様
野村　武夫様
萩原　武様
京都信愛教会
長谷川　和雄様
花見　真弓様
浜岡　典子様
濱名　正子様
林　貞子様
平越　真澄様
平田　久美子様
藤井　茂様・和子様
藤野　美弥子様
古市　洋様
本多　倫子様
前波　明子様
牧田　稔様
松井　孝典様
松岡　弥生様
松田　和代様
松本　聡子様
三島　明子様
三谷　洋子様
うさファーム
宮崎　佳文様
宮田　咲子様
宮谷　博幸様
宮崎　和子様
森川　惠子様
森本　典子様
山崎　春幸様
山根　ひろみ様
山本　真実様
レディースメンタルクリニック一粒の麦
山本　裕子様
よつ葉ホームデリバリー京滋様
和田　義則様・早智子様
渡瀬　富美恵様
渡戸辺　のばら様
井上　清治様・結果様
匿名様２名
（順不同）

万が一、漏れがございましたらご一報くださいますよう、よろしくお願いいたします。

後援会にご協力を…

後援会入会・継続には、同封の振込用紙をご利用ください。
寄付金控除領収書をご希望の方は、振込用紙の通信欄に「寄付用領収書希望」とお書きください。

年会費　個人様　１口　3,600円
　　団体様　１口　10,000円
会　費　郵便振替
振込先　口座番号：00970-2-222380　加入者名：社会福祉法人ミッションからしだね後援会

※既にお振込みいただいている会員様は、お見過ごしください※

今年も最後の月を迎えました。この１年、皆さまはどのようにお過ごしでしたでしょうか？
コロナという言葉を口にしない日はない、まさにwithコロナの１年でした。私たちはコロナで様々なものを失いました。
その痛みは今も世界を覆っています。失ったものを忘れてしまう必要もないと思います。なぜなら失ったものは、今なお私たちを支えてくれていますから。元通りの生活に戻ることはできないですが、みんなで協力し工夫しながら新しい良いものを創っていく世界になればいいなと思います。
この１年もミッションからしだねに、ご協力ご支援を賜り、感謝いたします。
どうか、あたたかな優しいクリスマスをお迎えください。
来る年が皆さまお一人おひとりにとって、良い一年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。

（編集後記）２回にわたって、ＬＧＢＴＱを取り上げました。ジェンダー（社会的･文化的に形成される性差gender）についての話題を、よく耳にするようになりました。年配の男性テレビコメンテーターが、おそらくなんの悪気もなく言ってしまった一言が、女性蔑視として炎上するということがありました。その時代時代であたりまえだった通念があり、いったんしみついてしまったものを訂正したり変更したりするのは、年齢がいけばいくほど至難の業という気もします。徹底的に批判したり追及したりするのではなく、悪意がなければ許しあうくらいの度量も、今は必要な時期かもしれないと、個人的には思います。みなさまはどうお考えでしょうか。（ＭＳ）

書店だよりは、毎月発行です。こちらで、お読みいただくことができます。→→→→→→→→→→→→→→

からしだね通信の次号は2022年７月の予定です